

福岡県 グループホーム 陽だまりの家
地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組みを期待したい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳、安心、感謝、共生、交流」をキーワードとした具体的な行動の方針を 理念にあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務に入る前に個人で黙読したり フロア2ヶ所に掲示し ユニット会議時、職員全体会議時等に唱和を行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族にはホーム便りでお知らせし、地域へは別に地域向けホーム通信を作成し回覧板等で見てもらっている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中など声をかけ ホームに遊びに来ていただくよう伝えたり バザーを開催し気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気をつくるように努力している。 秋祭りをい ふれあいサロンの婦人部の方に踊っていただいた。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、ふれあいサロン、町内会の一員として入居者と一緒に道路愛護や清掃活動に参加している。バザーや秋祭りをい近所のかたが多数みえた。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの広報誌に介護の知識を掲載しいつでも役に立てることをアピールしている。バザーや秋祭り時、ホーム内見学や介護相談を受けている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価をもとに、職員全員が閲覧し職員会議で話し合いを行っている。改善点あれば改善計画書を作成し改善行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員より情報提供があったり家族や利用者の話、意見などを取り入れている。活動内容を報告、意見交換し、次回の活動にいかせるよう取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会が多い。市からの問い合わせ、事業所からの業務及び、介護に関する質問等聞くこともある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議やユニット会議等で、勉強会を行い共通理解行っている。又職員回覧のコーナーにパンフレット等置き認識できるよう配慮しているし家族へはホームの新聞にて制度の紹介をしている。成年後見制度は運営推進会議でも取り上げ話し合いを行った。ユニットに一人制度利用者がおられる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の開催、職員会議での勉強会、ユニット会議で虐待を行っていないか点検や注意を払っている。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い理解得ているし、不明な点の質問等その都度説明している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	介護相談員制度が終わったが、アンケートを利用し家族以外の面会者や家族、利用者の意見、要望をホーム運営に活かしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時には近況を報告し、面会が少ない家族には電話や手紙を通して報告行っている。手紙には写真を添えており入居者の表情も伝わっている。金銭管理に関しては預かり金等の報告し了承のサインをいただくようにしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関にアンケート用紙を常時おいている。また、意見、不満等がないか面会時、声かけおこなっている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員へのヒアリング、アンケートなど実施し、機会を設けている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務時間を変えたり 利用者の状況の変化に対応している。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員へのヒアリング、アンケートなど実施し不安、不満の解消に努め、退職などがあった場合は 花束贈呈などの機会を入居者の前で 行う。これは利用者への混乱をなるべく抑える効果があると考えている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>左記配慮している。キャリアアップを促し、それらがあるときには 機会設け勤務調整している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者の方にぞんざいな言葉遣いや対応をしないように、言葉遣いチェック表を使い、各個人で評価したり 接遇マナー研修を実施し 自己研鑽できるよう働きかけている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修等を推進しており、管理者、代表者との連絡会議を毎月行い管理者としての仕事や考え方を話し合っており働きながら ヘルパーの資格を取得している職員もいる。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム部会等の参加、見学、他ホームでの研修など行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員へのヒアリング、アンケートなど実施。不安、不満の解消に努めている。外部研修にてスタッフのストレスケアについて学ぶ機会を設け管理者等参加している。</p>		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月のユニット会議では勉強会を行っておりスタッフ一人ひとりが勉強し発表する機会を設けている。また外部研修の際はその案内を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の話を受容、傾聴し、ニーズを明らかにしていくようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には特に連絡をこまめにし、不安なことを明確にし改善できるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にグループホームのニーズなのか 他のニーズなのかを まず見極めるようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実例はないが、数日間、日中だけの利用であるとか徐々に馴染めるように柔軟に考慮、対応していく考えである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の仕事の話や行事や習わし、方言のことを 教わったり、簡単な仕事を一緒に行い、積極的に お手伝いしていただいている。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	現況の報告、相談を行い、家族に対応していただくほうがより効果的であろうと思えることは家族に対応していただいている。 例えば、帰宅願望のある方と電話で話してもらい落ち着かせることもある。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の進行に伴う変化や対応について話し合い、認知症の理解を深め 関係が悪化しないよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親交の深かった方がいる施設へ訪ねて行ったり、無人の自宅へ行ったりしている。自宅や友人、家族の写真を居室に飾っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う方と席を同じにしたり、職員が会話に加わり話がはずまれることもある。 入居者の部屋を訪問されることもある。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気入院された方には お見舞いをしたりターミナルで亡くなった方には お参りしている。その他家族の事情にあわせて対応している。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニットごとの申し送りノートに思いや意向を記入している。 ケア会議に話されたことを取り上げ、職員同行し個別に夕食してある。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話からも聞き取るように努めている。聞き取り困難なときは家族に尋ねユニット会議で情報を共有化している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること出来ないことシートを使いユニット会議で話し合い「これもできるのではないか」という疑問からできることを増やすように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や言葉を聞きユニット会議で ケアプランの話し合いを行っている。行きつけの喫茶店でランチをされたり釣りをされたり友人のいる施設に会いに行かれている。家族にケアプランを開示し、希望を取り入れている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行っている。状態に応じて1か月、2週間と見直し行ったケースあり。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践とその時の新しい発見や気づきを記入するようにしている。個別記録にケアプランも一緒にはさみいつでも閲覧、確認が出来るようにし、それを踏まえて感じたことや気づきをユニット会議で情報の共有に努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物好きの方の付き添いや友人、知人の面会、外出や外食を行っている。初期には特に連絡を こまめにし、不安なことを明確にし改善できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近隣の小中高のボランティアの受け入れを行い高齢者理解のきっかけを作っている。また秋祭りやバザーに民生委員やボランティアの力を借りて楽しむことができた。</p>	
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>医療機関とサービス機関を利用されている入居者に関しては支援方法の意見交換をしている。</p>	
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>ホームのケアマネジャーと連絡体制ができています。</p>	
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的にかかりつけ医の往診あり利用者一人ひとりに応じた適切な医療が受けられるように連携とれている24時間対応の主治医がいる。</p>	
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>地域に認知症の専門医がおられない現状があるが、ホームの主治医に相談している。</p>	
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>2人の看護師が在籍しており、利用者をよく理解するために看護業務にとどまらず介護業務も対応している。また、主治医の看護師とも相談しながら連携をとっている。</p>	

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中の見舞い、洗濯物の交換などを行い利用者の状況等聞く機会をもち、早期の退院、退院後の生活の話し合いをもっている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>できること、できないことを家族に伝え、状況をみてホーム職員、主治医、家族と話し合いを持ち方針を決め、書面をとり承認を得ている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族と話し合い、了解を得たうえで主治医と24時間の対応をしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居等される場合は細かい情報をいれたサマリーを提示し情報提供している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その方にあった言葉かけに留意し、記録等はファイル使用し、職員にしか見えないようにしている。</p>		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	問いかけの形で声かけするという配慮をし、ひとつの事についても本人の生活歴や理解度にあった言い方(表現方法)を考える、待つなどして伝わりやすい工夫、配慮をおこなっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶の時間に居室でぬり絵されているときは 居室にお茶を持って行ったり、買い物希望があるときは できるだけその時に行くようしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容の来所があるが、近所の美容室にいく利用者もいる。 外出時、お化粧品することもある。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器洗いを一緒に行ったり、食事中、会話を楽しんでいただくよう配慮している。外食では食べたいものを選んでもらっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方には、ホーム側で管理をしながらではあるが、吸いたい時に吸ってもらっている。 飲みたいものを選んでもらったり、ケーキ店に行き食べたいケーキを選んで店内でたべられている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	しぐさやパターンを見つけ随時トイレ誘導したり、昼と夜で使い分けるなど、その方の状況に合わせて布パンツ、パッド、オムツなど対応している。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間を気にする方には、初めにいつ入るか尋ねて希望に合わせている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量の確保に努めている。現在、ほぼ皆さん 夜間安眠されている。日中眠そうにされている時は臥床うながしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にあった役割を お願いしている。率先してごみ出しをされたり皿洗いされる方がいる。買い物好きの方には なるべく付き添っている。毎月1～2回の外出、外食行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時は なるべく自分で支払いしてもらうようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良ければ外に散歩に行かれる方もいらっしゃる。みなさんと散歩へ出かけたり買い物の支援を心掛けている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出し普段行けない場所へ行ったり、仲のよかった人がいる介護施設に行ったり、病院の見舞いに行ったりしている。家族の結婚式への参加も支援している。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり電話の希望あれば話してもらったり 耳の遠い方には代わりに要件を伝えている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	湯茶の用意し近況などお知らせしている。話しやすい雰囲気になるような居室作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し職員会議で勉強会を行い、身体拘束に関する認識を深めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが、日中は施錠しない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら声かけ、見守り等行い様子把握している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物については保管場所を定めている。自身で管理できる方は自室で所持されている。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急法の研修や避難訓練の実施、毎日、定時に所在確認を行い、ヒヤリ・ハット報告書を全職員、目を通し、ユニット会議で事故防止の検討を行っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法等の研修を行い備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けての避難訓練を行っている。また、利用者が手作りしたコースター添えて近隣住民の家を訪ね火災、災害時の救援活動協力をお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン説明時などにリスクとその対応策説明を行い、協力、了承得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	緊急時対応のマニュアルがある。ホームの看護師、かかりつけ医に報告、相談している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬効と副作用、何錠服用されているかを、各職員で表に書いて把握するよう努めている。薬が変更になった時は看護師が申し送りノートに書いて知らせている。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や表を作り一日の水分摂取量を出して便秘予防に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者それぞれにあった口腔ケアを行うと共に気づいたことはケア会議で話し合っている。訪問歯科医より指導助言あっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算して献立を立てている。表を見て水分摂取が少ない時は お好きな飲み物を勧めたり歯がない方には小さく刻んで消化しやすいよう気をつけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師による研修やインターネットの情報を利用しマニュアルを作っている。新型インフルエンザに備えてのマスクや介護用品等の備蓄をしている		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表に基づき行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物もオレンジ色を基本とした柔らかいイメージで、玄関前に一年中、花が咲いており入りやすい雰囲気である。		

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光がよく入り明るい空間で大きなガラスから遠くの山や空、庭の芝生や花も見え、よく話題にあがっている。廊下に写真、絵画など飾り利用者の作品も展示し家族と一緒に作品を見てもらい楽しませている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの方同士で話がはずまれることが多い。庭のベンチも寛がれる場所になっている。畳の空間で昼寝もされる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物を持ってこられたりされている。家族の写真など飾っている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を使ったり消臭剤を使用している。室温に気をつけエアコンを使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所、手すり等つけたり、入浴の仕方も残存機能を生かした物品を利用して対応している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者それぞれに理解しやすい言葉かけを工夫し「わかる力」を引き出している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチ、さまざまな花が咲いており、ゆっくり散歩し楽しませられている。野菜を植え収穫を楽しませられている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

福岡県 グループホーム 陽だまりの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、活き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

コスモスユニットでは、医師や看護師と連携を図りながら食事・排泄・入浴等の日常生活に支援が必要な方やグループホームを生活の拠点としながら地域の老人会に参加したり買い物等を楽しみにされている方など、要介護5の方から若年性認知症の方まで幅広い状況の利用者が日々の生活を送られています。、和気あいあいと利用者の方が自分の出来ることを少しずつ発揮してお互いに助け合いながら生活されている姿が見受けられます。個性豊かなスタッフが各々の持ち味を活かして、利用者それぞれのニーズに個別で対応しながら笑い声のたえない明るいユニット作りに取り組んでいます。

排尿や排便の隠語をつくり入居者や家族等のまえて「尿」や「便」という言葉をださないように配慮している